

平成26年度

第59回 長野県中学校連合教科研究会

# 美術科

## 目次

I 研究テーマ	1
II 趣旨	1
III 参加校の研究要旨一覧と参加者名, 指導者名	1～2
IV 研究問題と協議内容	3～8
V 本年度の研究の反省と来年度の方向	9
VI あとがき	10

## I 研究テーマ

「生きる力」をはぐくむ表現と鑑賞の活動はどうあったらよいか

## II 趣 旨

「生きる力」をはぐくむことを念頭に、美術の授業でどのような資質や能力が育っており、また、今後さらに育てなければならない資質や能力はどのようなものであるかを明らかにしたい。各校におけるつける力の決めだしと、つける力をつけるための表現や鑑賞の手だてやカリキュラムのあり方を生徒の具体的な変容の姿から究明していきたい。

小中連携の視点に立ち、小学校図画工作科の実践事例からも学び合える機会としたい。

## III 参加校の研究要旨一覧と参加者名、指導者名

### 第一分科会

指導者 南信教育事務所指導主事 赤羽 勲夫 先生  
 司会者 飯田市立鼎中学校 大内 奈美子 先生  
 記録者 佐久市立望月中学校 平澤 智宏 先生  
 世話係 信大教育学部附属松本中学校 鹿野 耕平 先生

真田中学校	「自分」と今を結びつけた自画像や風景画の題材を通して、生徒一人一人が表現主題を持ち続けながら制作に向かうための具体的手立て（主題設定、背景部分の表現手法）について。	北沢孝太郎
浅間中学校	美術科の存在価値は、生徒が授業の中で友との関わり合いを通して自尊心を持ち高められることと考え試行錯誤を繰り返している。3年生の秋に自分自身の頑張りや変化を見つめて制作し、抽象表現の採用により上手下手という価値観から解放された鑑賞ができる題材とした。	赤羽あずさ
豊科北中学校	費用を抑えた立体表現に取り組み、前年度は「段ボールで使うものや飾るものを作る」としたが、生徒が作りたいものを決めきれずに意欲的な活動にはならなかった。今年度はお面に絞り、素材も取り組みやすいように白ボール紙と新聞紙を使った張り子も加えて展開した。	宮尾 賢一
春富中学校	「生きる力」を「物事を多面的にとらえ考察する力」と考える。目隠しをすることで細部にこだわらず量感を意識した制作ができ、また得意不得意等の差も出ずに全員が同程度のおもしろさを感じられた。目隠しを取った後の「実物と違う」という視覚に頼る感想が今後の課題。	羽田 顕佑
坂城中学校	繰り返しスケッチした自分らしい手にタイトルを付けることで意味づけしたり、ウェビングマップ等を使ったりして自分とは何かという主題を探した。それを基に手のレリーフをつくり、手を着色したりその周りの紙の部分に関連した絵を描いたりすることで主題を表現した。	安部 元彰
上諏訪中学校	作品を見て楽しむだけでなく、自身の表現力の向上、自己課題の追求にかける「意見交換」としての相互鑑賞の在り方、美術館との連携をいかに題材、授業展開について。	早出 優里
塩尻西部中学校	発想構想段階における、有効な授業展開について。	宮澤 悠美

両小野中学校	デザイン分野における基礎基本的知識、技能学習のいかし方、生き生きと自分らしく自己表現するための題材開発や具体的手立てについて。	高野菊丸
鼎中学校	日常的な学習場面における、感性と表現力を相互に高め合う為の生徒同士の学び合いの方法や具体的手立てについて。	大内奈美子
附属長野中学校	表現主題や意図を効果的にあらわすための構想力を高める指導の在り方や、感情など目に見えないものを視覚伝達的にデザインしていく具体的手立てについて。	塚田 香織
附属松本中学校	生活を彩る美術の働きに注目しながら、そこに見られる意図や工夫を感得し、生活場面において自己の美意識を表現の根拠といた生徒の姿を目指した、題材のあり方や友との関わりの手立てについて。	鹿野 耕平

## 第二分科会

指導者 北信教育事務所指導主事 高山 顕光 先生  
 司会者 松本市立鎌田中学校 宮下 晴雄 先生  
 記録者 南箕輪村立南箕輪中学校 土屋 真巳 先生  
 世話係 信大教育学部附属長野中学校 鈴木 大三 先生

臼田中学校	自分の思いや願いを色や形にすることができる生徒の育成。また、関わり合いを通して広げる発想や構想、技能の定着のためのポイントについて。	丸田 岳大
第一中学校	掛軸の表装体験をととした日本文化独自の良さを感じるための制作、および鑑賞指導のあり方。またイメージフレームの使用や表具の取り合わせをととした友との関わり。	羽田 光
東御東部中学校	立体感や手触りなどにこだわりながら、最後まで丁寧に表示するためのだてと留意点について。また地域の伝統文化に関わった題材と生徒の興味関心について。	大月香世子
南箕輪中学校	想いを色や形に込めた表現と自他を認め合う相互鑑賞のあり方。美術科の学習活動における「学び合い」を題材展開のどこに位置付けるか、またその手法について。	土屋 真巳
才教学園中学校	美術のみならず、多くの場面で大切な力となる観察する能力をいかに育んでいくか。平面の作品制作をとおして、物の見方や考え方について学ぶ姿について。	石本ゆう子
明善中学校	自らの発想や構想を大切に、創造の喜びを感じることができる美術学習のあり方。また、制作過程の作品を使って試行錯誤しながら構想していく活動の有効性について。	深町さや香
鎌田中学校	「つくり出す力」としての基礎・基本について。発達段階に合わせて、色や形で表現することの喜びを感得しながら、個々の表現技能を高める活動について。	宮下 晴雄
附属長野中学校	伝えたい内容を効果的に伝えるための構想力を高める指導のあり方。また、構成のインパクトや面白さだけでなく、感情を伝えたり目に見えないものを効果的に表したりするための手立て。	鈴木 大三

#### IV 研究問題と協議内容

##### 【第1分科会】

I 「生徒の美的感覚や表現力を高めるのに有効な題材の構想や、つきたい力を明確にすえた授業展開の在り方について」(題材の魅力、つきたい力の発信)

(1)武井武雄(イルフ童画館)の刊本作品を鑑賞し、自分で選んだ昔話の登場人物の気持ちを4場面のステンシル版画で表した字のない絵本(上諏訪中学校)

##### ①研究内容

ステンシル版画はやり直しがきき試行錯誤できるよさがあるので、制作途中に相互鑑賞を設定し表現したいことが伝わるか意見交換する場を位置付け、制作に反映できるようにした。

鑑賞の際には「感情を表す形」「色の組み合わせ」「版の並べ方」の3観点が有効であった。

##### ②協議内容

相互鑑賞の難しさが話題となった。デザインでは「伝わるか」が観点となり制作に生かしやすいが、絵画などでは「表したいこと」に対してのアドバイスに難しさがあり、友の意見を生かすことで独創性が消えてしまったり、「伝わるか」ということに対しても色や形の持つ意味の共通理解が必要になったりするのではないかという意見が出された。それに対し鑑賞活動の持ち方の工夫(観点を与える、自分の表したいことを明確にしてから臨む等)や、美術を通した人間関係作りまで意見が出された。

(2)心の中の負の部分にも向き合いそれを乗り越えて制作する3年生の自画像(真田中学校)

##### ①研究内容

この題材にこだわり10年継続してきた。昨年まではグレー紙に黒コンテというシンプルな素材で取り組んできたが、生徒の意識は技能面に偏ってしまった。そこで今年は紙やコンテの色を自ら選択したり学習カードを工夫したりすることで、最後まで主題を意識した制作となった。

##### ②協議内容

こだわって取り組む意義について話題となった。自分を真っ直ぐ見ることに抵抗を感じる時期だからこそあえて取り組ませたいし、タイトルが書けるといのは乗り越えて心が開けた状態になったということで、そこに大きな魅力を感じるという意見が出た。また、その日の学習課題については量的進捗の目安や、教えたことを設定することが多くなってしまいうことや、自画像の定義(身体的部分が入るもの、心情的なもの)についても話題となった。

(3)指導者助言1

- ・題材にも不易と流行がある。生徒の実態、題材をつくる教師の願い(素材の価値)、学習指導要領の3つから題材を生み出したい。
- ・ストレートに「主題」を問うても子どもには分かりにくいので、「タイトル」を聞くのはいい方法。また、主題は深まるもので、 $A \rightarrow B$ となることもあるが、 $A \rightarrow A' \rightarrow A$ になることが望ましい。
- ・学習課題は作業課題になりがちであるが、つける力から設定したい。

(4)生徒が撮った写真と、その写真から生まれる詩やタイトルという言語や、モダンテクニックの表現を融合させた、開いて完成させる8枚のフリップを持つ丸形絵本(信大附属松本中学校)

##### ①研究内容

子どもが普段感じている美に焦点を当て、自分の中の美的価値観を明らかにしながら制作に取り組んだ。写真を基に表現と言語を行き来し、また鑑賞も繰り返すなかで、次第に自分の見方・感じ方(=隠れていた自己)に気づいて制作が深まり、満足できる作品となっていった。

##### ②協議内容

素材のおもしろさや教材化・展開の工夫、なにより生徒作品のよさ、子どもの柔軟な発想が

話題となった。自分で鑑賞をしたり振り返る中で表現が深まるが、友との関わりで言えば、詩やタイトルを決めるという言語化の活動で他者との関わりが見られ、深まる場面も見られたと報告された。参会者からは、普段意識しない自分の中にある美的な価値観を高めるよい題材との意見が出された。

#### (5)自分らしい手を紙の上にレリーフ状に表して、周りを含めて着色をする複合題材（坂城中学校）

##### ①研究内容

繰り返しスケッチした自分らしい手にタイトルを付けることで意味づけしたり、ウェビングマップ等を使ったりして自分とは何かという主題を探した。それを基に手のレリーフをつくり、手を着色したりその周りの紙の部分に関連した絵を描いたりすることで主題を表現した。

##### ②協議内容

なぜ手なのかが話題となった。今年異動したばかりの学校で子どもが抵抗感を持つ自画像に取り組めなかったことと、自画像の指導に困難さを感じていたために自分を見つめる題材として手に取り組んだとの報告があった。手の周りに自分の好きなものを描く時に子どもとの会話が生まれ、コミュニケーション手段としても有効だったようだ。子どもは粘土にこだわったり、周りの絵にこだわったりして制作し、色々な方向性がありおもしろい題材となった。

#### (6)3年生として学校生活で気になることをピクトグラムで発信（両小野中学校）

##### ①研究内容

生徒同士の関わりや学び合いを深める授業づくりのために制作は4人グループの中で行い、常に意見交換やアドバイスがしやすいようにした。後輩への引き継ぎを前に、3年生としての経験を後輩に言葉ではなく表現で伝えていく題材とした。来週校内に実際に展示予定。

##### ②協議内容

子どもの気になる点の多様さ、視点のおもしろさが話題となった。単純化の過程での指導に比較鑑賞を用いたことが有効であったことや、シンプルさが伝えたい内容を明確に伝えられることが指摘された。作品の大きさ（11 cm四方）に質問が挙がったが、生徒が作りやすい、失敗してもやり直しがしやすい、さりげなく展示ができる点で採用したと報告された。

#### (7)指導者助言2

- ・美術科は各校に一人という場合が多く、普段から相談できる仲間がないという問題もある。今日紹介された題材を持ち帰り、ぜひ実践してみしてほしい。
- ・言語活動というとすぐに話し合いとなることが多いが、子どもに本当に必要感があるか検討を。本当に必要ならすぐに子どもは動き始めるもの。話し合いでは、友達のよさを認めながらも最後に決めるのは自分。美術の言葉で語り合える子どもの育成をしていきたい。
- ・題材では最初から教師側が全てを与えるのではなくて、あえて足りない状態を作っておき、制作の中で子どもからプラスαを提案できようにする 것도必要。
- ・デザインの伝える内容で禁止が多いのはどうか。できればポジティブで遊び心がある題材を。
- ・教師の授業作りもシンプルにするほど子どもに伝わりやすい。補助資料や話し合いが必要な子と必要でない子がいる。必要な子は集めればいいし、そうでない子は制作させる、見極めて対応する教師の力量が必要になる。

## II「表現主題の高まりや鑑賞の広がり、表現の喜びをうむ、生徒同士の関わり・学び合いの具体的な手だてについて」（学び合いの特色を紹介）

#### (1)学校の魅力を小学校の児童に伝える映像メディアを使ったポスター制作（信大附属長野中学校）

##### ①研究内容

デザイン構想シートを使って段階的に制作を進め、見る観点を決め出したポスターマスターカードを使って友だちと意見交換をしながら、試作を繰り返して表現意図に迫る展開とした。手だてが有効で多くの生徒が満足したが、感情等を表現するための手だて不足を感じた。

## ②協議内容

「思いが伝わるポスターとは」について意見が交わされた。空間の使い方、人物だけでなく物をモチーフとするといった構成面、題材面に加え、話し合いを通して作品が変化していくことや自分なりのこだわりを持つ子どもの姿、映像処理ソフトの扱い方や技能面の比重をどれくらいと考えているか等の意見も出された。提案者からは発想と伝えたいよさが出会い、そしてよりわかりやすく追求してほしいと願ったが、欲張りすぎた点があったことも報告された。

## (2)段ボールや白ボール紙等の費用の安い素材を利用したお面づくり（豊科北中学校）

### ①研究内容

費用を抑えた立体表現に取り組み、前年度は「段ボールで使うものや飾るものを作る」としたが、生徒が作りたいものを決めきれずに意欲的な活動にはならなかった。今年度はお面に絞り、素材も取り組みやすいように白ボール紙と新聞紙を使った張り子も加えて展開した。

### ②協議内容

多様な生徒作品のおもしろさが話題となり、参会者も作品を手にとったり被ったりしてみた。立体作品で問題となる制作途中の保管方法について提案校から独自の工夫が報告された。廃材となってしまう段ボールや台紙の切り落としの白ボール紙や新聞紙といった素材を利用しても、教師の題材設定や子どもの意欲的な工夫と取り組みによって魅力的な活動が行えることが報告された。

## (3)昨年度の自分と今の自分の内面や行動を、ジェッソで抽象的な形を生み出し着彩した2枚の作品に表して、自らの成長と自分や友の表現のよさを感じとる3年の短時間題材（浅間中学校）

### ①研究内容

美術科の存在価値は、生徒が授業の中で友との関わり合いを通して自尊感情を持ち高められることと考え試行錯誤を繰り返している。3年生の秋に自分自身の頑張りや変化を見つめて制作し、抽象表現の採用により上手下手という価値観から解放された鑑賞ができる題材とした。

### ②協議内容

10 cm四方ほどの黄ボール紙にジェッソを使い、指や筆、櫛、フォーク等で生徒が自由に形を生み出し、それにアクリル絵の具やスプレーで着彩された作品に参会者は大変興味を持った。その制作方法や生徒の制作の様子に質問や感想が出された。ジェッソよりも粘性の高いモデリングペーストの使用も提案された。

## (4)目隠しをして塑像用粘土と自らの触覚を使ってピーマンの模刻をする1時間題材（春富中学校）

### ①研究内容

「生きる力」を「物事を多面的にとらえ考察する力」と考える。目隠しをすることで細部にこだわらず量感を意識した制作ができ、また得意不得意等の差も出ずに全員が同程度のおもしろさを感じられた。目隠しを取った後の「実物と違う」という視覚に頼る感想が今後の課題。

### ②協議内容

彫刻領域の学習のスタートとして素材との出会いを大事にした、特に彫刻の持つ量感を実感させるよい題材となった。1時間で完結しているが、内容的にもまた作品が残らずに終わるのももったいないという意見が出された。焼いて残すとの提案もあった。生徒の「手でみる」

との感想に感嘆の声が上がり、生徒の感じ取ったものをこれからどこに生かしていくか検討してほしいとの意見が出された。

(5) 菱田春草「王昭君」の鑑賞で、美術館学芸員の話をもとに登場人物の心情を吹き出しにすることで考えを深め、各自が感じた作品の魅力をキャプションにして美術館に展示する（鼎中学校）

① 研究内容（協議時間なく提案のみ）

今年度特別企画展として行われた飯田市美術博物館とのタイアップの鑑賞活動。生徒たちは吹き出しで表現する活動に楽しく取り組み、同じ作品にも多様な見方や感想があることのおもしろさに触れた。字数制限のあるキャプションが、整理して端的にまとめることに役立った。

(6) 指導者助言 3

- ・ポスターの資料集め等で、分類する・当てはめるといった具体的な操作によって子どもの言語活動は活発になる。その中で自ら考え見つけることと、教師が教えるべきことを明確にしておくことが大事。
- ・お面の制作では、何でそのお面を自分は作るのかを追求していくと表情もつくようになるのではないか。
- ・抽象表現では偶然性だけではない根拠を持って取り組むことも大事。どう感じてどう制作したか問い、それを書いてまとめること（言語活動）によって必然性が生まれてくる。
- ・授業の中で子どもがシーンとなる瞬間、その時に課題が本当に据わることがある。
- ・最近の授業ではよかれと思って教師が色々周到に準備して与えすぎていないだろうか。あえて有るものをカット（制限）することで、新たな何かが出まされることもある。
- ・題材との出会わせ方、課題のすわらせ方について松島中学校の彫刻の授業を紹介。素晴らしい実践を持っている先生方がいるので、そういう授業をぜひ見に行してほしい。討議題1 デザイン表現における主題性と発想構想段階における鑑賞活動の有効性について

【第2分科会】

【協議1】 「基礎基本を学び、表したいイメージを確かなものへとしていく場の設定」

(1) 「着色における様々な表現方法を通して自分のイメージを膨らめていった事例」（鎌田中）

静物画に取り組む。小学校でつけた力をどう中学校で生かすかを考えた。混色をする一方で、重色はあまり見られない実態があった。そこで、作品を鑑賞したり、水分を抜いて描く技法を扱ったりした。指、ブタ毛の筆、刷毛、習字の筆などの効果を生かすなど表現に豊かさが見られた。

○ まとめ

混色で自分の色をつくることは大切。様々な用具を準備し、その効果を体験できるようにしたい。

(2) 「柔軟な思考で様々な発想をし、日々の生活の中で活用できる力を育む。～観察眼を磨く～」

（才教中）

認めてもらった経験が少ない生徒が多い。色彩構成の授業では、まず雑草を用意するよう指示してスケッチに取り組んだ。観察し描き、メモする中で、普段気付かない形や色彩に驚く姿があった。全ての形には理由があると気付くこともできた。どの題材でも本物を用意することを大切にしている。

構成を練る場面では、アイデアをたくさん出すことが意識できるようにしている。様々な発想ができるようにすることが、社会に出た時の力になると考えている。

○ まとめ

見過ごすような雑草から、自分の感覚で美しさを発見できるように生徒の見る目を養い、表現追

求を深めている。「違う見方をしてみよう、複数にしてみたら？」など追求の手がかりを示している点が重要である。

【協議2】「素材に触れながら自分なりの表現への発想をふくらめていく場の設定」

(1) 「自らの発想や構想を大切に、友とかかわりながら創作の喜びを感じることができる美術学習のあり方」(明善中学校)

題材名「二人の物語」。針金を使ってふたりの人物をつくり、配置を工夫して物語を表した。針金による造形によって、集中が苦手な生徒も追求をする姿が見られた。「先生やってください」という生徒も減った。

・短時間ででき、動きに重点をおいておもしろい。言葉を形にしている。

○ まとめ

二人の位置関係と、それぞれの人物の動きを表現することで、主題を生み出している。学習指導要領の指導事項に示されたことを具現する実践である。

(2) 「自らの目標に向けて、最後まで丁寧に制作できる生徒～歌舞伎役者を立体的に彫り出す～」

(東部中学校)

「東御の歌舞伎手鏡をつくろう」と木彫レリーフ制作に取り組んだ。根気よく彫ることで表現が高まっていくことを考えた。また、東御の有名な歌舞伎と上田の農民美術で、地域の特色を題材に生かそうとした。作家の作品を見て話し合ったり手で触って鑑賞したりして、半立体に表す彫りの工夫に気付けるようにした。

・断面図で考えなくても面と面との関係を注目すれば半立体に彫れる。凹凸がつけばいいのか、参考作品のようにしたいのか、どこまでを生徒に求めるのか教師が明確にもつことで、生徒の追求も深められる。

○ まとめ

立体感を出そうとよく生徒たちは彫った。気をつけたいのは、半立体に彫る技能ばかりに注目するのではなく、自分の表したい感じを確かめて彫ることを大事にしたい。この地域素材を大切に育ててほしい。

(3) 「自画像制作について」(相森中学校)

アクリルガッシュでデザインのぬり方しか学んでいない。自画像での着色をどのように指導したらよいか。

・「色を塗る」ではなく、「色で描く」という意識で取り組むと良い。明暗か、色彩か、観察か、何を追求するのかを教師は明確にしたい。

○ まとめ

作品の何を見て、どう読み取るか。そこから、自分は何を表したいのか主題を見つけられるようにしたい。

【協議3】「参考作品、アイディアスケッチなどから表現の多様性、発想のおもしろさに気付く指導や鑑賞の方法」

(1) 「想いを色や形に込めた表現と、自他を認め合う相互鑑賞」(南箕輪中学校)

「履くと〇〇できる靴」をテーマからまとめた自分の願いを基に粘土で表した。アイディアスケッチで十分考えた後、グループ内で発表し、アドバイスし合ったら、再びスケッチを再検討した。

・学び合うことで自分では気付かないところが気付ける。しかし、制作の時間を削ってまで学び合いの時間をあえて設ける必要があるのかも検討したい。意見交換では必要感を持たせたい。



○ まとめ

話し合いは手段であって、目的にならないようにしたい。必要感をもって話し合うことは大切。

(2) 「日本の伝統文化のよさにふれながら、関わり合い制作への思いを膨らめた事例」

(上田市立第一中学校)

題材名「作品を引き立てよう！伝統の掛け軸」。伝統文化への親しみをもつこと、掛け軸の仕組みを基にイメージフレームを使って構成して構想を練る学習、互いのよさを伝え合う鑑賞活動をねらいに実践した。

○ まとめ

日本文化に親しみをもつこと。つきたい力を考えて構想を立てていること。1年生の目標として自分の考えを説明すること。題材構想において考慮されている点を学びたい。

(3) 「友と関わり合いながら、技能面を中心につける力を明確にするための教材」(臼田中学校)

題材名「MODELING THE VEGETABLE」として、本物の野菜のように粘土でつくる活動に取り組む。シルエットにした画像を見て、興味関心をもって対象を見ると共に、見る角度で形が違うことやその面白さを理解できるように試みた。4つの方向から野菜をスケッチしてから制作に入った。

○ まとめ

スケッチの活用では、感覚を通して形をつかんだり、野菜の特徴をとらえることが大切である。

(4) 「テーマに関わった手だての工夫や、意欲的に取り組める授業方法」(裾花中)

自分が選んだ曲から想像を広げて表す題材。歌詞から発想できるようにした。参考作品で平塗りとグラデーション、固有色以外で描いたものを見て、表現効果に目が向くようにもした。構図の工夫にも触れた。

・曲を聞きながら鑑賞するのも面白い。また、歌詞やメロディーなど何を基に発想したかを語ったり、どんな理由でその曲を選んだのかを語ったりすることもよいのではないかな。

○ まとめ

どこから発想したかを語るなどの言語活動を通して、発想や構想の能力の育成を意識している点を学びたい。

(5) 「思わず手に取りたくなるパッケージデザイン」(信更中学校)

お菓子のパッケージデザインから、地元のリンゴの箱をデザインする題材へ展開した。

・地元のリンゴのパッケージをデザインする題材で興味関心をもって追求できる。実際に使われると面白い。どう売ってほしいかなど生産者にインタビューするなどして、その思いを伝えるデザインを考えるのも面白い。

○ まとめ

伝えたいことを伝えるという用途を基に考えることを大切にしたい。相手意識も大事である。

(6) 「ポスター制作における構想力を高める支援。グループでアドバイスし合う事例」

(附属長野中学校)

題材名「附中の魅力を伝えよう～附中広告大賞～」。パソコンで画像を構成し、学校を紹介するポスター制作で、発想や構想を練る力を育てようとした。参考作品でアイディアのヒントをつかみ、友だちからのアドバイスを受けて検討する姿があった。パワーポイントで画像処理を行える点が良い。小学校や電車に展示したい。

○ まとめ

明確な視点を示して鑑賞している点が、その後の表現の追求を支えていることを学びたい。

## V 本年度研究会の反省と来年度への方向

### ◎本年度の反省

項 目	内 容
・ 本年度の研究テーマについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ よい</li> <li>・ 「生きる力」を中心に幅広く提案できる。</li> <li>・ 「はぐくむ」がいい。</li> <li>・ 目標をもっと具体的に特定してもよい。テーマが大きすぎる。</li> <li>・ まだ、研究の密度が薄く、改善の余地がある。</li> </ul>
・ 研究の方向について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各地の先生方と今後の教科のあり方を考え合え、必要だと感じた。</li> <li>・ 生徒の実態に合わせて研究されている成果を共有できた。</li> <li>・ 作品を持ち寄ったが、うまくいったもの、いかなかったものがあると参考になり、意見交換できる。・ よい</li> <li>・ よい、若い先生方の実践発表とても参考になりました。より幅広い先生方も参加できるとよいと感じました。</li> </ul>
・ 研究の方法や経過について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若い先生方も気楽に発言できる雰囲気があってよい。</li> <li>・ レポートやパワーポイントを使った説明がわかりやすかった。</li> <li>・ 持ち寄った作品を通して、分かりやすく授業の内容が伝わりよかった。</li> <li>・ 3年間のカリキュラム全体を通して観ていく必要を感じた。</li> </ul>

### ◎来年度の方向

・ 来年度の研究テーマ、サブテーマについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 来年度も本年度と同じテーマで研究していく。</li> </ul>
・ 研究の方向について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本年度の趣旨を踏襲していく。</li> <li>・ 多くの題材を幅広く紹介してもらえると嬉しい。</li> <li>・ 授業内での細かな支援の方法を吟味していきたい。</li> </ul>
・ 研究会までの日程や当日の運営について (メールを使用した文書送付やレポート提出についても)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レポートの形式を自由に。</li> <li>・ 作品から生徒の姿を語るという方向でよい。</li> <li>・ 若い先生方が多く意見が言いやすい場で有難かったです。</li> <li>・ 先生方や生徒の皆さんに心地よく迎えて頂き、ありがとうございます。</li> </ul>
・ 研究会全般を通して改善したい点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究熱心な先生方が多く活発に意見が交わされていました。</li> <li>・ 特にありませんが、第2分科会の方とも交流できるのが良いと思いました。</li> <li>・ 多くの学びがありました。本校での実践でも活かしていきたいです。</li> </ul>

## VI あとがき

晩秋の一日、県下各地からお集まりいただいた先生方には、実践レポートや使用した資料などをもとにして、数多くの提案や討議をしていただきました。

本年度の研究会を振り返ってみますと、美術教育に情熱を注いでおられる先生方の願いが、資料や題材展開、学習課題の設定等に表れているレポートばかりではなく、参考作品をお持ちより頂きまして、それぞれの学校の素晴らしい実践に学ばせて頂き「美術の学習」を生徒のために構想していきたいと取り組まれていることがよくわかりました。また、討議の中では、それぞれの実践のよいところを学んでいこうとする先生方の発言ばかりで、そこからも参会された先生方の熱意が感じられました。来年度もこのような熱心な研究会にしていきたいと考えております。

終始適切で温かいご指導をいただきました南信教育事務所指導主事 赤羽勲夫先生、北信教育事務所指導主事 高山顕光先生には心から御礼申し上げます。

また、研究会を実りあるものにしてくださった司会の鼎中学校 大内奈美子先生、鎌田中学校教諭 宮下晴雄先生、細かく記録をとり厳しい日程の中で研究のまとめにご苦勞いただいた記録の望月中学校 平澤智宏先生、南箕輪中学校教諭 土屋真巳先生、数々の実践を携え熱心に協議していただいた参会の先生方に心から感謝いたします。ありがとうございました。

委員長 鹿野 耕平  
副委員長 鈴木 大三